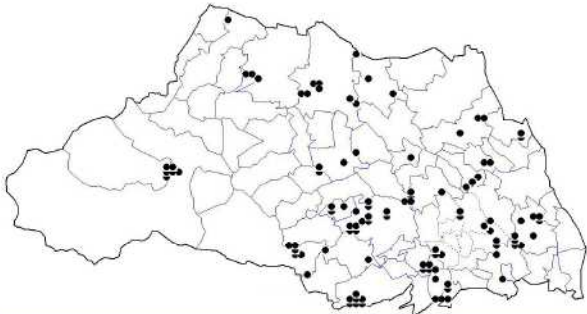


# 埼玉県が実施している県民参加型生き物モニタリング調査

NPO法人自然観察指導員埼玉 小峯 昇 ・ 埼玉県自然環境課 ・ 埼玉県環境科学国際センター

## 県民参加型生き物モニタリング調査の目的

自然環境保全活動を行っている県内の団体が、様々な生き物を調査記録することにより、県内の生物多様性の変化を把握するとともに、県民から提供される様々な生き物情報を共有化する仕組みを構築する。



調査サイト分布図「モニタリングサイト1000」と同様に、調査団体の活動場所をサイトとして登録してもらい、105メッシュからの情報が提供された。

## モニタリング対象種選定

調査地間で比較するため必須調査種を指定した。(H23年は動物40種、植物49種) 選定基準は、増減動向が目される種と絶滅危惧種等である。多少の入れ替えを行ったが、継続性を重視し同一種を調査対象とするようにした。また、多くの方が調査に参加することを留意し、種の区別が難しいものは選定しないようにした。

## モニタリング参加団体(1年以上調査に携わった37団体)

- |                                  |                       |                       |
|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 かわごえ環境ネット自然環境部会                | 2 NPO法人むさしの里山研究会      | 3 NPO法人秩父の環境を考える会     |
| 4 NPO法人北本雑木林の会                   | 5 さいたま緑のトラスト協会飯能支部    | 6 NPO法人荒川の自然を守る会      |
| 7 NPO法人エコシティ志木                   | 8 NPO法人里山環境プロジェクトはとやま | 9 NPO法人自然観察さいたまフレンド   |
| 10 (財)埼玉県生態系保護協会浦和支部             | 11 NPO法人和光・緑と湧き水の会    | 12 NPO法人つるがし里山サポートクラブ |
| 13 NPO法人黒浜沼周辺の自然を大切に             | 14 星川の自然とキタミソウを守る会    | 15 浦和自然観察会            |
| 16 綾瀬川を守る会                       | 17 (財)埼玉県生態系保護協会春日部支部 | 18 NPO法人地域環境緑創造交流協会   |
| 19 さいたま緑のトラスト協会保全第1号地ボランティアスタッフ会 | 20 さいたま緑のトラスト保全第6号地   |                       |
| 21 さいたま緑のトラスト保全第7号地              | 22 さいたま緑のトラスト保全第9号地   | 23 川越水上公園自然観察の会       |
| 24 越谷市自然ウォッチング指導員連絡協議会           | 25 わしのみや自然保護ボランティア会   | 26 よみがえり荒川の会          |
| 27 (財)埼玉県生態系保護協会熊谷支部             | 28 本庄市環境緑の会           | 29 久喜自然愛好会            |
| 30 山口の自然に親しむ会                    | 31 あさか環境市民会議          | 32 白岡緑と土の会            |
| 33 北部埼玉自然観察グループ                  | 34 東松山自然倶楽部           | 35 今福雑木林の会            |
| 36 原市みどりの再生ボランティアの会              | 37 子ども生き物調べ隊          |                       |

## 成果

- 1 調査対象種についての基礎的なデータが収集できた。県内でこの規模のデータ収集は行われていない。
- 2 調査対象種の県内分布がある程度明らかにされ、今後の県民参加による調査の糸口がつけられた。
- 3 図鑑の解説は全国の平均に基づき記述されるが、今回の調査で埼玉県内の各種の生活史がある程度明らかになった。このような記述は他に例がない。
- 4 参加団体の活性化・生物多様性への関心が高められた。この点は極めて評価できるものであり、今後の保全活動の原動力になるとと思われる。

## 課題

- 1 データ不足が最大の課題である。このため今回は経年変化について論じてない。特に哺乳類では、ロードキルなど偶発的な記録に頼らざるを得ない。
- 2 植物は花期データが多く、芽生え、結実、種子が落下する時期のデータが少ない。芽生えでは同定が困難な種も、同一地点の継続観察であれば解決できる。
- 3 報告件数にばらつきがある。データは各調査地で毎月均一であるのが望ましい。
- 4 調査期間(4~12月)以外のデータがあると植物の生活史を論じられる。
- 5 動物では普通種と思われるものの報告数が予想以上に少なかった。
- 6 調査に対する取り組み姿勢で集まるデータ量が異なるようだ。

## 動物

### モニタリング調査票

### 【動物調査対象種】

- 哺乳類 ①カヤネズミ(NT1,2) ②ホンドタヌキ(RT) ③ホンドキツネ(RT) ④ニホンイタチ(RT) ⑤ハクビシン ⑥アライグマ[特定]
  - 鳥類 ①オオタカ(VU) ②ノスリ(NT2) ③チョウゲンボウ(NT2) ④シラコバト(VU) ⑤カクコウ ⑥アオバズク(RT) ⑦ヒバリ ⑧モズ ⑨オオヨシキリ ⑩セッカ ⑪ガビチョウ[特定外来]
  - は虫類 ①クサガメ(NT2) ②アカミミガメ[要注] ③ニホンヤモリ(NT1,2) ④ニホンカゲ(RT) ⑤ニホンカナヘビ
  - 両生類 ①アズマヒキガエル ②ニホンアマガエル ③トウキョウダルマガエル(NT1) ④ウナギ[特定]
  - 魚類 ①メダカ(VU) ②カダヤシ[特定]
  - 昆虫類 ①クマゼミ ②ヒグラシ ③ミンミンゼミ ④ジャコウアゲハ ⑤ナガサキアゲハ ⑥クロノマチョウ ⑦ツマグロヒョウモン ⑧アカボシゴマダラ[要注] ⑨アキアカネ ⑩チョウトンボ ⑪ゲンジボタル(VU) ⑫ヘイケボタル(NT1)
- 注) EN: 絶滅危惧ⅠB類 VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧 RT: 地帯別危惧 特定: 特定外来生物 要注: 要注意外来生物

### 種別解説例

#### ホンドタヌキ(イヌ科)

*Nyctereutes procyonoides viverrinus*



**この種の概要** キツネと共に昔から人々に親しまれてきた。近年、疥癬やアライグマとの競合などにより、台地・丘陵帯で個体数が急減していると考えられる。県RDBでは「地帯別危惧」。

**調査の状況** 3年間の調査では、23市町60地点で137件の確認情報が得られ、哺乳類の情報の中では最も多かった。75件が生体の観察で45件が死体の発見、17件が生体(ため糞)だった。死体はほとんどがロードキルでその確認割合は34%と高い。増減については、「昨年と変わらず」(60件)が最も多く、「新規のため不明」(31件)、「昨年より多くなった」(20件)、「昨年より少なくなった」(10件)の順であった。他の哺乳類で「前年より多くなった」「非常に多くなった」と報告があったのはハクビシン28件(報告件数に占める割合は77.8%、アライグマ10件(同41.7%)であった。

**分布の状況** 低山帯が15地点、台地・丘陵帯が8地点、低地帯が37地点であった。河川敷や緑地などを利用して、県南部の市街地近辺にも生息していることが推測できる。

**月変化** 10月~12月にかけて増加する傾向にある。また、5月下旬から6月にかけて、つがいや幼獣を含む確認情報が多かった。幼獣が巣から出現する時期で昼間も活動するので多く確認されたと思われる。

## 植物

### モニタリング調査票

### 【植物調査対象種】

- シダ植物 ワラビ、ミズワラビ(NT)、コウヤワラビ、
  - 離弁花類 ホソアオゲイトウ[外来]、ウマノスズクサ ナガミナゲシ[外来]、セイヨウカラシナ[外来]、マダモトバイスナ[外来]、オランダガラシ[要注]、カキネガラシ[外来]、イタチハギ[要注]、アレチヌスビトハギ[外来]、クズ、アオイスミレ、スミレ、タチツボスミレ、マルバスイレ、アレチウリ[特定]、セリ
  - 合弁花類 マルバシロコウ[外来]、キランソウ、ジュウニヒトエ、ヒメオドリコソウ[外来]、アメリカイヌホオズキ[外来]、クチナシグサ(NT)、ヤセウツボ[要注]、オオバクサ[要注]、バクサ[要注]、アレチノギク[外来]、オオアレチノギク[要注]、オオキンケイギク[特定]、ペニバナボロギク[外来]、ヒメムカシヨモギ[要注]、コオニタビラコ、セイタカアワダチソウ[要注]、セイヨウタンポポ[要注]、オオオナモミ[要注]
  - 単子葉類 ヤブカンゾウ[史前]、タカサゴユリ[外来]、ヤマユリ、ツルボ[史前]、ヒガンバナ[史前]、キショウブ[要注]、メリケンカルカヤ[要注]、ススキ、セイバンモロコシ[外来]、キンラン(EN)、ササバギラン(NT)、シュンラン(NT)、メヤマトンボ(NT)
- 注) 史前: 史前植物 外来: 外来植物

### 種別解説例

#### アレチウリ(ウリ科)

*Sicyos angulatus* L.



**この種の概要** 生育速度が非常に早い特定外来植物。河原や土手で他の草本を覆い隠すように大群生する。県内での初認は40年前である。以後急速に県内に広まった。

**調査の状況** 3年間の調査で177件の報告があった。生育地は河川敷(94件)と河川・池沼・土手(44件)が多く、雑木林(13件)、休耕地(7件)、造成地(3件)、用水路(3件)、道ばた(2件)と続く。水田、市街地からは報告がなかった。特に河川敷は本種が生育する土壌条件、水分条件、光条件が最もよく整っているところと思われる。増減については、「昨年と変わらず」(85件)が最も多く、「昨年より多くなった」(27件)、「昨年より少なくなった」(14件)、「非常に少ない」(6件)もあり増減もあるようだ。

**生育状況の月変化** 芽生えは4月が圧倒的に多く、春・夏・秋にもわずかにある。幼植物は4月が最盛期で6月まで見られる。成葉は4~11月まで見られるが、5~8月が特に多い。つぼみは8~9月に見られ同時期に開花が始まり11月まで続く。結実も開花時期と重なり8~11月となる。凋落・枯死は10~11月に始まる。全般的にいつでも成葉があり、つぼみ、開花、結実もいつでもあり季節感に乏しい植物である。

**草丈(草高)・被度階級の月変化** 草高は4~10月に旺盛に伸び最大値は10月の277cmであった。11月は生葉の草高は極端に小さくなる。被度階級平均も4月の0.1.0から9月は0.1.0から9月は0.1.0となり最大値3.2を記録した。9・10月の開花・結実期には、葉の陰に多数の実が付き1株の専有面積が高くなる。